



伊藤祐介(徳沢)、齋藤貴子(西林東)、武樋孝幸(大舟沢)、秦千代栄(さゆりが丘)、伊藤優一(屋敷)、岩橋義平(中町)、大竹トヨ子(原)、大出伸男(大久保)、小川美農里(安座)、折笠みゆき(5町内)、佐々木祐子(上野尻)、佐藤延子(宝川)、紫藤眞理子(下野尻)、杉原辰徳(松尾)、鈴木百合子(山口)、津川由紀(西原)、仲川久人(呼賀)、橋谷田淳(2町内)、長谷川タケ子(下野尻)、布施慶久(5町内)、星亨子(4町内)、星

総合計画検討会議委員(敬称略)

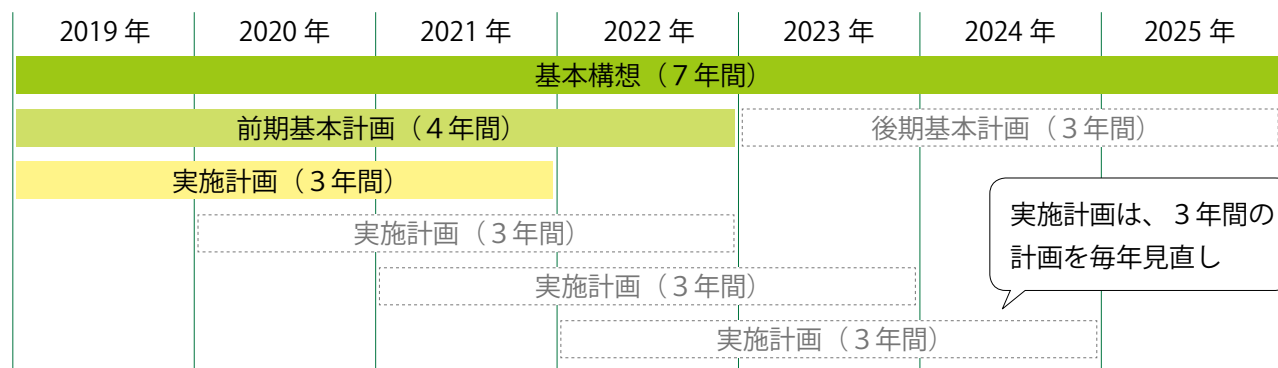


▲代表で委嘱状を受け取る公募委員の伊藤祐介委員

敬介(上野尻)、星光輔(4町内)、本間義治(西林)、室賀英之(菅本)、築田新一(松尾)、八幡修二(芝草)、矢部佳宏(中ノ沢)、渡部晋(縄沢)、渡部照幸(黒沢)



— 総合計画の期間 —



総合計画策定プロジェクトチーム 主任 企画情報課長 矢部 喜代栄

総合計画づくりは、町民が町の未来を考える場です。自分に合った方法で、ぜひ参加をお願いします。

総合計画は、まちづくりを進める上での一番の計画です。まちづくりを家づくりに例えれば、総合計画は完成予想図や設計書だと思います。家づくりでは、工務店や大工さんが住む人の意向を十分に聞いて設計書をつくり、家を建てます。まちづくりも、そこに暮らす人たちの思いを十分に聞くことによって、住む人が望む、住みやすい町になっていくと考えます。

「まちづくり基本条例」では、計画づくりへの町民参加の方法が定められています。「総合計画検討会議」での話し合いをはじめ、「意見公募」や「町民懇談会」など、さまざまな機会を通して町民の皆さんから「こんな町になったらいいなあ」、「こんな取り組みが必要では？」といった意見をいただきたいと思ひます。

自分に合った方法で、ぜひ、計画づくりへの参加をお願いします。

まちづくりの最も基本となる計画
次期「総合計画」の検討作業がスタート



1月24日に第1回西会津町総合計画検討会議が開かれ、本町のまちづくりの最も基本となる計画である次期「西会津町総合計画」の策定作業がスタートしました。会議では、平成31年度を初年度とした7年間の次期総合計画の基本構想と、4年間の前期基本計画の策定を目指し、これから本年12月ごろまで検討作業を重ねていきます。

総合計画とは

総合計画は、町の憲法に位置付けられる「まちづくり基本条例」で定められた「まちづくりの最も基本となる計画」です。まちづくりの指針となる「基本構想」、具体的な取り組みを定める「基本計画」、そして具体的な事業や実施年度、事業費などを定める「実施計画」の3つで構成されています。

1年前倒しで策定

現在の総合計画を策定してから8年が過ぎようとして現在、町を取り巻く社会経済情勢は大きく変化しています。平成27年度からは、人口減少社会に対応するための「西会津町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき取り組みが始まるなど、町の将来像やまちづくりの取り組み

について改めて検討する時期がすでに到来していると考えられます。このことから、町では現行の総合計画(2010「平成22年」)〜2019「平成31年」の終了を待たずに、1年前倒しで、平成31年度を初年度とした7年間の次期総合計画の基本構想と、4年間の前期基本計画の策定作業を進めることにしました。

総合計画の策定方法

30人の町民で構成する「総合計画検討会議」と、25人の町職員で構成する「総合計画策定プロジェクトチーム」が連携しながら策定作業を進めてきます。これから6月ごろまで町の将来像と分野ごとの方向性を検討し、その後、分野ごとに取り組んでいくべき具体的な内容を検討することになります。11月ごろには意見公募と町民懇談会を実施し、12月町議会定例会に提案する流れで進めていきます。